

any vol. 42
November-December 2003
Yamaguchi Culture Information
「エニー」
ars nova yamaguchi

Rafael
Lozano-
Hemmer

TOPICS

山口の 夜空に架かる、 光のメッセージ。

ラファエル・ロサノ・ヘメル
「アモーダル・サスペンションー飛びかう光のメッセージ」

いよいよ YCAM OPEN!

特別付録 YCAM探検マップ付
イベント情報、「YCAM InterLab開館展」など一挙公開

アートの新領域を刻む

池田亮司コンサートピース、ダムタイプ「Voyage」ほか

あなたもこの冬「ちょっとオペラしない?」

増田いずみ ポップ・オペラ・コンサート

EVENT / MUSIC / PLAY / ART / MOVIE / OTHER

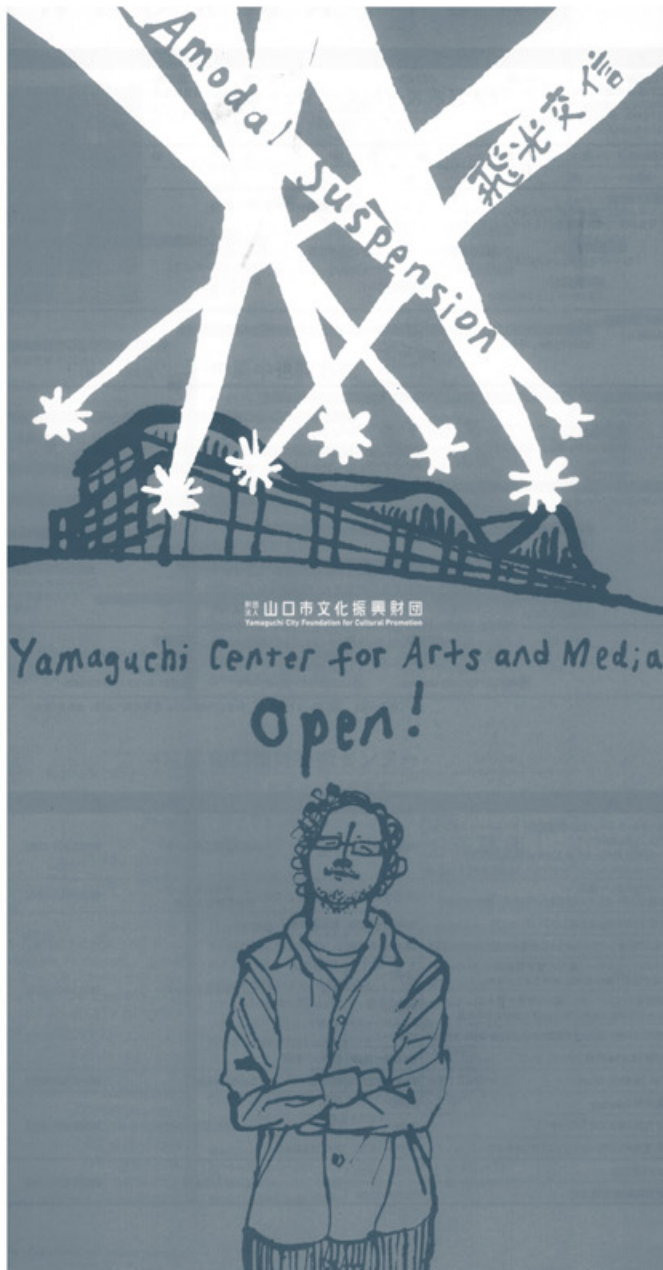
クリエイティブスペース赤れんが
「大田道洋写真展」

中瀬中也記念館

小企画展「四谷花園アパート時代ー竹田豊二郎日記より」

山口情報芸術センター

「野村 誠(しょうぎ作曲)ワークショップ参加者募集」





山口の 夜空に架かる、 光のメッセージ。

いまここにいる山口の人たちと、世界中のネットユーザーからのメッセージがセンター上空で飛光交信する光の祭典。山口情報芸術センターの開館記念を飾る国際プロジェクト、ラファエル・ロサノ＝ヘメル「アモーダル・サスペンション — 飛びかう光のメッセージ」。開催まで調査・構想すること数年、山口市と世界を繋ぐ新作プロジェクトが、ついに姿を現します。



この作品のために初めて日本を訪れたロサノ＝ヘメルさん。今回は、メキシコ系カナダ人である彼の人柄や情熱などについて、親交の深い小崎哲哉さん（ウェブマガジン「REALTOKYO」、アート雑誌「ART iT」編集長）に、いろんなエピソードを綴っていただきました。

エレクトロニックアートと結婚式

小崎哲哉 *Ozaki Tetsuya*
〔REALTOKYO〕〔ART iT〕編集長

ラファエルとの最初の出会

ラファエル・ロサノ＝ヘメルに初めて会ったのは、1997年、オーストリアはリンツでのことだった。リンツでは毎年、アルスエレクトロニカフェスティバルというエレクトロニックアートの祭典が開かれる。ラファエルはこのフェスティバルに、映像を用いたインタラクティブ作品「Relational

Architecture #2 Displaced Emperors(関係性の建築／追放された皇帝たち)]を出版していた。

「Displaced Emperors」はリンツで展示・上映されていた。城の風格に堂々と渡り合うような、映像と音楽とインタラクティブ技術を駆使した大作だ。ラファエルは3年後に、同じフェスティバルで別の作品によってグランプリを獲得するが、この作品で受賞しても不思議ではないと思われるほどに、完成度も志も高いダイナミックな傑作だった。僕は感動し、ラファエルとふたりの制作スタッフ、スージーとウィルに話を聞いた。ここでは詳述しないが、題名が示すとおり、流亡を余儀なくされたふたりの皇帝の数奇な運命がテーマである。

この日に聞いたことをもとに、僕は日本の雑誌に記事を書き、それが縁で友人になった。メールを交わすような仲となり、ここからが本題だが、ある日結婚式に誘われた。美貌の花嫁はスージーだったけれど、驚いたのはそのことではない。式への招待メールは、1年以上前

relational architecture 8

Amodal

Rafael Lozano-Hemmer

2003.11.1 - 24

Suspension

に送られてきたのだ。

日く——式はラファエルが生まれたメキシコのクエルナバカという町で行われる。ガブリエル・ガルシア＝マルケスやモハメド・アリも別荘を持つ瀟洒なリゾート地だ。時期は年間通じて最良の季節、3月中旬～下旬。メインイベントである式をはさみ、5日間連続してパーティが開かれる……。

結婚式の案内状

最初のメール以降、案内状は何通も送られてきた。あるときはクエルナバカへのアクセス方法が詳細に綴られ、あるときは「すでに部屋を押さえてある」ホテルが予算ごとに具体的に書かれていた。名所旧跡や名物、社会状況なども知らされる。直前には招待客の一覧が、各人の人となりとともに全員に示された。僕を含めて招待客は、実際に式に招かれるまでに、土地柄や風土、そしてお互いのバックグラウンドを知悉することになった。言うまでもなく気分は徐々に盛り上がり、式の当日にピークに達した。

式は素晴らしかった。新郎新婦の家族は、プールと5つか6つのベッドルームを備えた豪邸を月極めで借りていた。広い庭園での、あるいは近隣のレストランを借り切った連日の祝宴。昼間はピラミッドへの遠足。夜は夜でダンスパーティが朝まで行われる。そしてメインイベントたる結婚式に続いて開かれたパーティは、マリッチのバンドが愛の唄を奏で、民俗芸能が披露され、新郎自らがDJプレイを繰り広げる感動的なものだった。

もちろん、メキシコの物価が破格に安いということが背景にある。でもラファエルは——スージーや他の友人とともに——この大イベントを大胆かつ用意周到に取り仕切った。長い時間をかけての調査と準備が背景にあったことは言うまでもない。

人事を尽くして天命を待つ

結婚式のような大きなイベントと、ラファエルが手がけるような大規模なエレクトロニックアートには共通点があると思う。アイデアが大切なのは当然として、チームを引っ張ってゆくリーダーシップが要求される所らだ。

その点でラファエルは申し分ない。頭はいいし、機転は利くし、人当たりはよく、心配りも心配りも行き届いている。「こんな作品をつくりたい」という内発的な意図に始まり、知的で地道な調査を経て、作品の結構を考え、実現するための合理的な方法を決定する。そして日程を定め、スタッフをとりまとめ、実作業に入り、スケジュール通りに作品をつくってゆくのだ。

インタラクティブとかエレクトロニックアートという、すぐに技術のことが頭に浮かぶけれど、何よりも大切なのは人と人をつなぐネットワークと、ネットワークを機能させる仕組みづくりだと思う。ネットワークがうまくつながれば、複数の要素は足し算ではなくかけ算の結果のように何倍もの効果をもたらす。予期せぬ結果を生むことも少なくはない。

結婚式でもアート作品でもそれは同じことではないだろう。人事を尽くして天命を待つ。「アモータル・サスペンション」が結婚式のときと同様の、いやそれ以上の感動を与えてくれることを僕は期待している。

PROFILE

小崎哲哉

1955年東京生まれ。首都圏の文化情報を紹介するバイリンガルのウェブマガジン「REALTOKYO」、同じくバイリンガルのアート雑誌「ART IT」発行人兼編集長。89年、都市型文化情報誌「03 TOKYO Calling」の創刊に副編集長として携わり、96年にはインターネットエキスポ日本テーマ館「センソリウム」のエディトリアルディレクションを担当する。2002年には環境破壊、戦争、迫害など、20世紀に人類が犯した「悪行」の写真100点を収録し、池澤夏樹、アパス・キアロスタミ、クロード・レヴィ＝ストロースら各氏が寄稿した写真集「百年の悪行」を企画編集した。趣味は料理。(ozaki@realtokyo.co.jp)

山口情報芸術センター 開館記念プロジェクト
ラファエル・ロサノ＝ヘルム
アモータル・サスペンション
——飛びかう光のメッセージ

11月1日(土)～24日(月・祝) 会期中無休
場所:山口情報芸術センター 周辺屋外(中央公園)
公開時間:6:00PM～6:00AM
<http://www.amodal.net/>

主催:財団法人山口市文化振興財団/共催:山口市、山口市教育委員会/
後援:カナダ大使館、山口県、山口県教育委員会、財団法人山口県文化振興財団/助成:カナダ外務・国際貿易省